

令和8年度 佐賀市立鍋島小学校 教育課程

1 学校教育目標

笑顔いっぱい 楽しく学ぶ 鍋島っ子の育成 ～つながりを大切に～

- ・ 主体的に学習に取り組み、共に力を合わせて伸びる児童
- ・ 思いやりの心もち、自分も相手も大切にできる児童
- ・ 規範意識や判断力を身に付け、正しい行動ができる児童
- ・ 健康な体づくりに取り組み、粘り強くやり抜く児童

2 本年度の重点目標

- (1) 校内研究を通して、主体的に学ぶ児童を育成する。
- (2) 規範意識や判断力を身に付け、正しい行動を自ら行おうとする児童を育成する。
- (3) 児童一人ひとりのニーズにあった教育活動を実践する。

3 重点取組内容

(1)学習指導の充実

- 「鍋島スタイル(学習)」を生かして、学力の基盤となる学習規律を守ることができる児童を育成する。
 - ・ 「鍋島スタイル ⑤時間を守り、チャイムで立腰 ⑥やること確認(学習内容・めあて) ⑦相手の目を見て話を聞く」の意義について職員が共通理解し、粘り強く共通の指導を行い、定着を図る。
- 校内研究を通して授業の改善を図り、主体的に学ぶ児童を育成する。
 - ・ 「個別最適な学び」や「協働的な学び」を取り入れた学習活動の在り方を探り、継続する。
 - ・ 学習への興味や関心が高まる環境(掲示物等)づくりを行う。
 - ・ ICTの活用を進める。必要に応じて、効果的な活用の方法について、職員の研修を充実させる。
 - ・ 家庭学習の質的な改善を図る。高学年(4年生以上)の一人一台端末の持ち帰りを継続する。
 - ・ 校区等にある学びの資源(まちづくり協議会、農家、等)と連携する。多様な人々と協働することの価値に気付かせるようにする。

(2)生徒指導の充実

- 「鍋島スタイル(生活)」の指導を通して、規範意識を身に付けた児童を育成する。
 - ・ 「鍋島スタイル ①つかおう、ぽかぽか言葉 ②ひびくあいさつ、返事 ③ろうかは静かに右側を歩く ④無言そうじ」の意義について職員が共通理解し、粘り強く共通の指導を行っていく。
 - ・ あらゆる教育活動において、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりの心等の価値を理解できる児童を育成する。また正しいと思う行動を自ら判断し、実践しようとするのできる児童を育成する。
- 開発的生徒指導の考え方を根底にもち、判断力や当事者意識を身に付けた児童を育成する。
 - ・ あらゆる教育活動において、児童とどのような「出番」があるかを考え、児童が「役割」を選択する場を設定する。また児童が自己決定し行動したことを「承認」することで、児童の責任感や自信を育て、自己肯定感を高めるようにする。
 - ・ 問題行動等の未然防止に努める。生徒指導協議会で情報交換し、指導事項を共通理解し、全校で共通の指導していく。また、問題行動等が発生した場合は、組織で対応し、早期解決、再発防止に努める。

(3)特別支援教育の充実

- 特別支援教育に対する職員のスキルアップを図り、どの学びの場においても児童一人ひとりのニーズにあった教育活動を実践する。
 - ・ ユニバーサルデザインや合理的配慮の観点から学習環境について見直し、どの児童も心地よく過ごせる校内環境(教室、ろうか等)を整える。必要に応じて、職員の研修を行う。
 - ・ 子ども支援会議を通して、支援を要する児童の状況や支援方法について共通理解を図る。
 - ・ 校内支援体制や外部関係機関との連携について職員間で共通理解を図る。必要に応じて保護者や専門機関を交えて個々の対応について協議し、児童のニーズに合ったものにつなげていく。
 - ・ 違いを認め合う風土作りに努め、多様な学びのスタイルの可能性を探る。